



善正寺だより

掲示板法話

見えなくても心の目が開いているから満足です

(辻井伸行さん)

先月、アメリカで開催されたピアノの国際コンクールで二十歳の天才ピアニスト・辻井伸行さんが優勝し、大評判になりました。この青年が生まれつきの全盲というハンディキャップを乗り越えて見事に才能を開花させたことが大きな感動を与えてくれました。

それ以上に、私は大切なことを教えられました。まず、報道陣とのやりとりに対する丁寧な言葉づかいが際立っています。この青年を育てたご家族のゆかしいお人柄がしのばれます。

それと共に深く心に響いたことがあります。帰国後のインタビューで、「一日だけ眼が見えたら何を見たいですか?」という記者の質問に対して、彼は微笑みながら、「両親とか友達とか星の光も見たいです」と答えた後少し間をおいて、「でも心の目で見えていますから、十分満足です」と答えたのです。大きな感動を覚えたのは私一人ではないでしょう。この青年が心の目でみたものは何でしょうか? 一生懸命、愛情いっぱい育てられた親心の温かさ、深さはなかったでしょうか。

この子が生まれたとき、母親は「どうしてうちの子が...」と落ち込んだそうです。しかし、産婦人科医であるおじいさんは専門的な知見から「生まれてくる子供の中で、何万分之一か視覚を失った子が生まれる確率がある。これは、この子に我々家族が力いっぱい愛情を注ぎなさいという眼に見えない思し召しだと思って、みんなで力を合わせて大切に育てていこう。この子にはこの子にしかない隠れた才能があるはずだ。それを引き出して独り立ちできるようにしてやるのが大人の務めだ」と落ち込んでいた若い両親を温かく励ましたのだそうです。このおじいさんの広く温かい言葉が若い夫婦に勇気を与え、そうしたゆるぎない慈愛がこの青年の心の目を開かせたのだといえるでしょう。

☆行事ご案内☆

◇門信徒会例会:7月19日(日)午後7時半

①「正信偈・和讃」(草譜、行譜)の区別と練習。
②お盆の由来(特に仏教における六道)についてのお話。

♪三重組コーラス♪

※7月2日(木)名古屋別院東海音楽祭!53名参加、8時小杉、8時半桜バス、コーラス服着用のこと、数珠、講師花月真先生
※7/8(水)午前10時半・陽光苑お誕生会慰問30回目!
※7/25(土)夜7時半、小杉練習2009「御堂演奏会」楽譜

◇キッズサンガ

7/4(土)午後4時お経、ゲーム、紙芝居。※毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもOK年中無休。ご褒美ガムや飴が大人気!
放課後、境内や卓球場は絶好の遊び場

◇一線会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

予告:「永代経」8月22(土)午後、夜・23(日)午後
講師:足利孝之先生(兵庫)。※お経開きは22日(土)10時半

◇小杉仏教会「追悼法要」9月20日(日)午前・午後
講師:石川欣也先生(奈良)

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索OK
新着情報や「住職と坊守のつれづれ日記」おススメ!ほぼ毎日更新!アクセス8000回達成。何でも相談お気軽に。仏事以外のことでも結構。即返信。

額を眺めるたびに、先代のご住職さんがにっこり微笑んで導いてくださった姿を思い出して、温かいお慈悲を感じさせてもらっています」というお便りです。「大心海」とは、『浄土和讃』の十八首目十方衆生のためにとて

如来の法蔵あつめてぞ
本願弘誓に帰せしむる
大心海を帰命せよ

にでてる如来様のお名前の一つです。どれだけ親心を忘れていても海のように大きくて、広く深い如来さまの心に育てられるからこそ、真実の心の目が開かれるのでしょうか。



5/31前総代伊崎栄一氏と伊藤正雄氏に感謝状

6/1大谷台小3年課外学習で来訪

6/15三重組仏教購買会(中川清昭師)多数の参詣者



坊守スケッチ

私の人生、何をあくせく生きるのか？



お寺の大きな行事が終わったのも、つかの間、次々に不意の用事が舞い込む。毎日、後ろから追い立てられるように仕事をこなしていくのが精一杯。自分だけの時間を持ち、気楽な生活を送る人を見ると、全てのことから開放されて、ゆっくりしてみたいと思う。しかし私には所詮叶わぬ夢であるから、望まない。誰も代わってくれる人がないならば、自分と与えられた仕事だと腹を決めて、さっさと片付けるしかない。

ところで島崎藤村の『千曲川旅情の歌』に「昨日またかくてありけり、今日もまたかくてありなむ、この命なにをあくせく、明日をのみ思ひわづらふ」という一節がある。この詩は藤村二十八歳の頃の作品である。作詩生活では家族が養えず、僅か一年程の期間に、三人の娘を次々と栄養不良などで失い、妻までも死んでしまった。藤村は肉親の死に出遭っても、それをバネにして自らを励まし、強靱な精神力で、あくせく作家活動をすることで、人生最大のピンチを乗り越えてゆく。

広辞苑で「あくせく」という言葉を引くと「心が狭く、小さなことにこだわること。また休む間なくせかせかと仕事などをする」と書いてあった。まさに私にピッタリの意味である。「頑張るすぎるから、苦しむのだ。も

う少し手を抜いて、ええ加減にせよ。『えらい、えらい』を連発して自分一人が重荷を背負っていると感じて、愚痴を聞かされる身にもなってみろ」と、家族から煙たがられる始末。

亡き先代住職が「自力のはからいの傘をさしていると、阿弥陀様のお慈悲の雨が沁みこまない。『大悲の雨』が私達の心の奥底まで沁みこんで、何があっても大丈夫！ 決してあなたを見捨てはしないのだよ」と言った。

若い頃は「自力のはからい」の意味がさっぱり分からなかった。

しかし年齢を重ねるにつれて、自分一人の力ではなく、周囲のおかげで生かされていると気づかされるようになった。私も何時までも若いつもりでも、この頑張りも永久に続くものでもない。いつかは誰かにバトンタッチしなければならぬ時が必ず来る。

このことを気付かせてくれたのは、私の友人の病気がきっかけだ。友人は大腸がんと診断されて手術した。死を覚悟した友人は、不安で私によく電話をしてきた。入院中の彼女に「この病気がきっかけで、また新しい人生観が開けるね」と、私はお説教で聞きかじったようなことを言った。退院後、彼女から「あなたの言葉で、蛋の心臓の私が、象の心臓のように大らかな気

持ちになれた。これからはダンパーのように猪突猛進ではなく、亀のようにゆったりした心で人生を歩むわ」と明るい声で電話があった。その言葉は、毎日あくせく人生を過ごす私に、心の目を覚ます言葉でもあった。

☆寄稿

- ☆タンカーが 緑の海を延う様に 茶刈り機孕む 駿河路往けば 四日市市 駅 弘 蓮
- ☆もしもお寺が なかつたら 在っても見えない 当たり前 先代住職 笑顔浮かぶ 宮城県 島本 邦子
- ☆被災地の 山に桜の咲き初むる 悲しきままを 包む春なり 四日市市 駅 恩 厚
- ☆闘病の長き一年無事に終え なつかしき友と語れる幸せ 退院し六月の日を佳き日とし また始めたり趣味のカラオケ
- ☆三重組コーラス♪ 七月二日(木)名古屋別院音楽祭 「光あふれて」三重組単独ステージ歌 8時小杉、8時半桜バス、コーラス衣装着用、到着後即写真・午後は花月先生の講演と歌「光あふれて」暗譜してない人に、小さい紙用意、蓮の花も用意。
- ☆カンパ有難う☆ 芝田きよ様・他匿名様、切手、お志有難うございました。

☆ホットニュース

- ☆第十四期「三重組連続研修受講者」5名決定！服部雅之様・館司朗様・館紅子様・館靖夫様・館純子様5名が受講されます。どうかよろしくお願ひします。毎月二十七日、連続十五回開催。七月二十七日よりスタート！
- ☆善正寺の本ホームページが公開！仏事に關する相談、お悩み等気軽に、「三重善正寺」で検索可。
- ※「住職と坊守のつれづれ日記」がおススメ、好評！ほぼ毎日更新。おかげさまで開設十か月、六月末でアクセス数が八千回を突破！今までお寺と縁がなかった方や若者、子供の訪問に感謝。
- ☆去る六月十五日、三重組仏教講習会には午前・午後とも百名以上の参詣者で賑わいました。中川清昭先生の「浄土真宗の教章」を一緒に音読。門信徒の皆様のご協力に感謝します。
- ☆宮城県の島本邦子様より「親戚の方より新聞小説『親鸞』を切り抜いて送ってもらおうので、3冊の和綴じ本にしました」とイラスト入り葉書を頂戴。
- キッズサンガ・杉の子合唱団
- ◇七月四日(土)午後四時より お経・ゲーム・紙芝居。お友達誘って来てね！夕方五時の練習は毎日。
- ☆編集子より ☆ 「善正寺だより」第一八七号をお届けします。◇今年も半年過ぎました。辻井さんの金言は、我々に「心の眼が開いているか？」と問う縁となりました。落ち着いてこの人生を大切に生きたい。

戦後のベビーブーム世代が大量に退職する時代を迎えました。今年還暦を迎える友人は「とうとう年金生活か」と不安そう。会社を辞めた途端、今までの人間関係は崩れ、暇つぶしに何を
していいかわからないと言います。まさしく「無芸退職時代」
を迎えました。なりふり構わず働き競争に勝ち抜いたものの、
人生をのんびりと楽しむ余裕がなくなったのが「無芸退職世代」。
立命館大元教授の木津川計氏は「趣味人とは①風雅を愛する
人の清貧を好む人②悠々追ふる人③人生を楽しむながら生
きる人のこと。会社勤めのマダチ人生から趣味を楽しむブルジョ
アに切り替えるなさい」と言われました。しかし人生はいつも順
風満帆な時ばかりではありません。思わぬ病気や肉親の死別
逆境が突然襲ってくることも多いのです。そんな時一時的
な慰めではなく、しっかりした支えが必要なのです。私がオス
スメするのは先ず散歩。自然界に身を置くことで心かりフ
ッリユキれ人間が優しくなれます。そのお手本が住職 鐘撞
きに來る子供から「おんん」と親しまれニコニコしています。
二番目のオススメは、生活の中に仏教を取り入れることです。
ご先祖が守り伝えてきたことを謙虚に学んでみましょう。
次期三重組連研に善正寺から五名受講予定。法
座を通して悩みを共有する仲間が増え、生きる指針が
見つかることでしょう。三重組コースでは7月2日名古屋
別院音楽祭に5名で参加します。仏教讃歌でお
法の輪が広がるのが私達の願い。皆様の協力
よろしくお願ひしませう。

合掌

平成二十一年七月

善正寺坊守 拝